

## 令和3年度 東京都立光明学園 学校経営報告

本校は、肢体不自由教育部門（小・中・高3学部）と病弱教育部門（小・中・高3学部）の2部門を2拠点（本校・分教室拠点）5指導形態（本校地域から通学生への教育、本校からの在宅訪問教育、寄宿舎を利用した通学生への教育、そよ風分教室での教育、分教室拠点からの病院訪問教育）を内包する新たなタイプの併置型特別支援学校として新規開校し5年目を終える。100年を刻む学校となるための基盤を強固に培うべく、開校後の3年間（体制構築期）を限定し、「最重点経営目標」の上位に「特別重点目標」を独自に定めた。この特別重点化が功を奏し、構築期の各数値指標を達成できた。

4年目を迎えた令和2年度は、新たな中期「学園充実期」の初年度であったが、コロナ禍対応を最優先したことから、学園充実期を1年間延長し、4年計画の初年度とし、未着手事項は令和3年度（学園充実期2年目）に継続することとした。本年度1月には、学園構想に基づく新校舎の第2弾「新北棟」を供用開始し、新たな教育環境への円滑な移行を重要テーマの一つとした。そして結果としては、コロナ禍にあって感染予防策を基盤とした制約を打破する創意工夫を凝らした学習開発の2年目ともなった。都の医療的ケア推進に関する新規指定事業や言語活動・読書活動・情報教育の研究校としても新たな教育ニーズに呼応した実践を推進した。一方で働き方改革の一層の推進にも努めた。開校以来5回目を迎えた全国公開研究会（テーマ“光明ニューノーマル時代の幕開け！ 学びのつながり6つのアクション”）では7チャンネル同時オンライン方式を打ち出し、全国から330名の参加者を迎え、校内教員150名と共に3全体研修・6セミナー・2ワークショップ、24ポスターの発表を含むプログラムを展開し高い評価を得た。（※以下、肢体不自由教育部門をS部門、病弱教育部門をB部門と表記する。）

### 1 今年度の取組と自己評価 “ KOMEI-GAKUEN Bright hopes REIWAIII ”

#### (1) 教育活動としての取組みと自己評価（特別重点目標に関する数値目標と実績値）

**重点目標1** 学園生が誇れる教育活動の展開 **自己評価** ○

**数値目標** 全関係者評価「学園としての良さを創出している」 $\geq 90\% \Rightarrow 87\%$

**方策** 学園生としての誇り実感プロジェクト <主管：経営会議、学習指導部、経営企画室>

- ① コロナ禍にあっても教職員の創意工夫により、併置の両部門が相互理解できる教育活動を積極展開した。  
⇒光明アートギャラリーを拡充して150絵画展示の実現により、学園生等作品の常設展示を充実
- ② 全学園生がエントリーできる芸術活動<光美展、光書展>及び学園生表彰により、学園一体感を醸成した。
- ③ 学園情報（学園HPやツイッター発信、全校通信「防災の橋」創刊、「健光の橋」通算52号）を積極発信した
- ④ 光明ブリッジ開通による西棟と北棟の一体的運用を開始し、円滑かつ多様な教育活動が展開できるようになった。
- ⑤ 歴史資料室を暫定整備し、利用開始した。保護者控室整備を最優先し、待機や情報交換機能の充実を図った。

**最重点目標2** 効率的・機能的な学校組織の確立による組織力向上 **自己評価** ▲

**数値目標** 外部委員評価「ライフ・ワークバランスを踏まえた業務改革を推進」 $\geq 90\% \Rightarrow 80\%$

**方策** 運営効率化プロジェクト：3年次 <主管：経営会議、総務部、教務部>

- ① 分散していた7職員室を一体化し、部門・学部ラインを明確にした執務卓配置を行い、業務の効率化を図った。
- ② 働く意欲を高める「業務提案」制度を継続し、多数の提案を受け、次年度計画に反映させた。
- ③ 主幹・指導・主任教諭等の職責を踏まえた業務ミッション一覧を組織内で公開し、目標を明確化した。
- ④ 集合型の専門性向上研修に代えて、個々の指導ニーズで即して聴講できるオンライン研修を本格導入した。

**最重点目標 3** 専門性ある人材を活用した教育の充実 自己評価 ○

数値目標 全関係者評価「専門性ある人材の活用が教育充実に繋がっている」  $\geq 95\%$  ⇒ **93%**

方策 専門人材活用プロジェクト <主管：経営会議、学習指導部、研究研修部>

- ① S部門：学習指導アドバイザーによる継続的な授業者支援や専門家を積極活用した指導改善を継続した。
- ② 両部門：PTA との共催で専門家を招聘してオンライン保護者向けの学習会（読書指導他）を2回開催した。
- ③ 両部門：専門家によるオンライン講座を用い、教員・学校介護職員・病弱教育支援員の学び機会を充実させた。
- ④ B部門：臨床心理士や専門医を継続的に招聘し、B部門学園生の心理面の指導充実を図った。
- ⑤ B部門：外部の専門人材を活用して学園生の体育活動の充実を図った。

**最重点目標 4** 授業力の向上 ☆個別学習等の「個に応じた学習指導」の力量形成 自己評価 ○

数値目標 全関係者評価「個別指導が充実し、基礎学力が向上している」  $\geq 95\%$  ⇒ **88%**

方策 授業力向上プロジェクト <主管：学習指導部、教務部>

- ① 授業者支援会議（70回）により授業改善を実施するとともに、成果を授業改善ハンドブックにまとめて活用した。
- ② 集合型の専門性向上研修に代えて、個々の指導ニーズで即して聴講できるオンライン研修を本格導入した。
- ③ コロナ禍のため、新転任者に限定して、指導実技型授業力向上研修を会場実施した。
- ④ 参観ガイド付き授業参観招待状、読み手の学園生向けの通知表により、指導に関する説明力の向上を図った。
- ⑤ 教材作成アドバイザーの協力を得て、個に応じた教材を活かした指導を充実させた。

**最重点目標 5** 専門性発揮・向上による特色ある教育の推進 自己評価 ○

数値目標 外部委員評価「専門性を発揮した教育活動が展開されている」  $\geq 90\%$  ⇒ **86%**

方策 専門性発揮プロジェクト <主管：教務部、学習指導部、支援部>

- ① 両部門：質の高い高等部学力調査問題の作成及び過去問題開示による受検生への事前対策機会の提供を図った。
- ② 両部門：将来に備えて、自ら学ぶ意欲のある学園生への検定挑戦に導いた。（英検・漢検、PCスキル）
- ③ 両部門：GIGA 端末等の機器を活用し、両部門全学部で多様なICT教育を展開した。
- ④ 両部門：分身ロボット活用も含めたオンライン学習の展開及びプログラミング学習等の充実を図った。  
<校内ネットワークの整備、Teams 活用、VR 活用、MB 活用、教員研修の推進>
- ⑤ 両部門：図書を増やして読書環境を整備し、全校読書月間等の読書活動を展開し、読書習慣を根付かせた。
- ⑥ 両部門：都指定「オリンピック・パラリンピックアワード校」としての教育活動を展開し、VR 参観を行った。

**最重点目標 6** 学園生が安心して学校生活を送れる生活指導体制の構築 自己評価 ◎

数値目標 保護者を含む関係者評価「緊急連絡の運用も含め防災面での改善が進んでいる」  $\geq 85\%$  ⇒ **95%**

方策 安心・安全プロジェクト <主管：生活指導部>

- ① 車両利用や電車通学等に応じた安全指導を徹底するとともに、B部門生には帰省・帰舎時の危機回避を徹底した。
- ② スクールバス、医ケア児専用通学車両の安全運行と乗降場の安全確保とともに、降車忘れ防止訓練を徹底した。
- ③ 学園生の防災訓練に加えて全教職員による災害時初動訓練を実施し、その詳細を「防災の橋」通信で全校配布した。
- ④ 万一の事故を教訓とした再発防止策（保護者への事故再現と説明、再発防止訓練）を講じた。
- ⑤ いじめ・体罰防止、自殺防止教育推進委員会を毎週開催し、校内状況の把握と速やかな対策を講じた。

**最重点目標7** 感染症予防推進を含む安心できる保健体制と安全で美味しい給食提供体制の構築 **自己評価** ◎

**数値目標** 保護者を含む関係者評価「感染予防も含め、安心・安全な体制が構築されている」 $\geq 85\%$  ⇒ **95%**

**方策** 保健・給食システム構築プロジェクト <主管：保健部>

- ① 感染症に対する感染予防諸策（感染状況に即した教育活動設定、制限、出欠状況「健光の橋」の発信）を講じた。
- ② 都方針を踏まえ、呼吸器を用いる学園生の保護者付添い縮減、シリンジ注入等を開始した。
- ③ 医ケア児専用通学車両の的確な運行に務め、11台まで拡大するとともに、看護師乗車機会増を図った。
- ④ 都指定拠点校として「医ケア児の保護者付添い短縮化事業」を研究推進し、短縮化を目指した。
- ⑤ 食堂の感染予防策を充実させるとともに、リクエスト献立等により、個に応じた安全で美味しい給食を提供した。
- ⑥ 形態食の提供による個に応じた摂食指導を推進するとともに、アレルギー事故防止を徹底した。

**最重点目標8** 進路指導・地域支援・教育相談の充実 **自己評価** ◎

**数値目標** 関係者評価「進路指導や進路情報、地域支援の内容が伝わっている」 $\geq 85\%$  ⇒ **88%**

**方策** 相談支援プロジェクト <主管：支援部>

- ① 本校病弱部高等部募集対策を強化し、都内全区市等への情報提供を通じて都市型病弱校の良さを積極発信した。
- ② 就学・転学・入学・教育相談、地域支援、進路指導等を支援部で一元管理し、学園方針に基づく支援を実施した。
- ③ 個々の希望や特性に応じた丁寧な進路指導を進め、全卒業生の進路を決定した。
- ④ 卒業生の自立支援のための校内販売機会提供や卒業情報の還流、同窓会連携等による卒業支援を進めた。
- ⑤ 学校PTA及び各種別の広域PTA（全国・ブロック・都組織を含む）活動へ積極的に協力した。

**最重点目標9** ライフ・ワークバランスを踏まえた、安全で魅力ある学校環境・職場環境の創出 **自己評価** ▲

**数値目標** 全教職員の時間外勤務の縮減 <時間外勤務月45h超教員の解消> = 超過者0名 ⇒ **超過者32名**

**参考値**：教職員・外部委員評価「魅力ある環境が整っている」 ⇒ **82%**

**方策** 環境改善プロジェクト <主管：総務部、教務部、学習指導部、経営企画室>

- ① 新北棟職員室等での働きやすい執務環境（教員専用デスク、打合せテーブル、面談コーナーの導入）を整備した。
- ② 教職員のメンタルヘルスサポートの充実（専門家相談の案内、ヘルスセミナー、新転任者に産業医面談の設定）
- ③ 職場環境の改善（出張販売店等のリフレッシュ資源の拡大）
- ④ 新環境に応じた効率的な業務（危機管理、個人情報管理他）の進め方を検討し、順次導入した。
- ⑤ 新校舎への出張販売店等の導入や休養室の設置により、リフレッシュできる環境の充実を図った。

**最重点目標10** 研究目標：学園教育の魅力開発・パッケージ化・発信&提供 **自己評価** ◎

**数値目標** 研究成果物提供者からの評価「大いに役に立った」 $\geq 80\%$  ⇒ **92%**

**方策** 公開研究会も含めた研究開発発信プロジェクト <主管：学習部>

- ① 肢部門：学習指導アドバイザーの協力を得て認知を高める指導に関する実践研究の成果をワークショップで発信した。
- ② 両部門：GIGA スクール端末等を活用したICT教育の実践研究をセミナーとして発信した。
- ③ 肢部門：医ケアに関する付添い短縮化事業、呼吸器管理、シリンジ注入等、専用通学車両運行等の実践を発表した。
- ④ 両部門：授業者支援会議の成果を授業改善ハンドブックや動画DVDにまとめて発表し、他校支援に貸出した。
- ⑤ 両部門：GIGA 端末活用を含むICT教育実践を成果発信した。（オンラインやプログラミング学習の工夫、遠隔授業）
- ⑥ 両部門：都市型病弱特別支援学校としての寄宿舎教育の実践、自立を目指す一人外出指導等を成果発信した。
- ⑦ 両部門：アートギャラリーを活用した新たな芸術活動「光明アートプロジェクト」の実践と成果を発信した。

## <光明学園教職員としての行動指針>

### 教職員個々の基本的行動指針 <経営会議・企画調整会議>

- ① **全教職員として学園生の規範モデルとなる行動実践**
  - ⇒ 体罰根絶を大前提とした人権尊重を推進した。(クリーンデスクを含む個人情報保護の徹底)
- ② **全光明学園 ビジネス・コードを踏まえた学園教職員として誇りある行動実践**
  - ⇒ 朝の校長講話等を活用して社会人・教育公務員としての服務規律の徹底とマナー遵守を徹底した。
  - ⇒ 200人超の職場にあって、各種業務ルールを明確にして、効率的な業務遂行を図った。
  - ⇒ ワーク・ライフ・バランスを意識したビジネススタイルの確立に務めた。

## 2 次年度以降の課題と対応策

### (1) 東京都特別支援教育推進計画(第1・2期)及び都教育委員会施策への積極的取組み

- ◆都教育委員会推進の「子供を笑顔にするプロジェクト」を率先実施し、特別支援学校の展開モデルを開発する。
- ◆都指定校事業<保護者付添い短縮化モデル事業拠点校>の成果を追究し、ノウハウを他校に提供する。
- ◆GIGA 端末の活用等をとおして、情報教育研究校事業の成果を発信する。
- ◆時間外労働時間の低減に加え、働く手応えを感じ取れる業務開発や環境整備、到達点を共有できる組織運営を行う。

### (2) 中期計画を踏まえた専門性の向上に基づく教育指導の充実 ※中期計画は令和3年度学校経営計画参照

#### ◆進路指導の充実

肢：新学習指導要領を踏まえた教育課程の改善後の実践研究を進め、カリキュラム開発成果を蓄積する。

病：教育課程改善の3年目の実践を展開し、その成果を学校の魅力として募集活動に反映させる。

全：本校の実態に即し、中高生の進学・就職志望に対応した「総合的な探究の時間」の指導事例を蓄積する。

#### ◆基礎学力の獲得を基盤とした自己肯定感の醸成と個性ある才能の発揮

全：読書環境整備を基盤として家庭貸出し奨励も含めた読書活動の全校展開を進める。(展開開始後2年目)

全：スポーツ表彰・アート表彰・書道表彰・読書表彰・模範学園生表彰等を継続し、輝く個性を見出す。

#### ◆第6回全国公開研究会を到達目標として日頃の指導実践の成果を一層発信する。(医ケア事業、遠隔教育を含む)

### (3) 令和3年度学校経営報告及び学校評価に基づく対策

- ◆開校後の第2世代教職員への移行期にあって、誰もが効率的に業務ができる環境整備・システム開発を進める。
- ◆時間外労働時間の低減に加え、働く手応えを感じ取ることができ、到達点を共有できる組織運営を行う。

### (4) 人材育成の継続・充実

- ◆今後の併置校運営を担うリーダー人材を育成する。(教育管理職、4級職、主任教諭挑戦者の発掘)
- ◆将来の教員リーダーとなるために、各種委員への推薦、派遣研修への選考挑戦)
- ◆主幹・主任教諭の人材活用を推進する。(主幹・主任ミッションリストの公開による到達目標の共有)
- ◆教員志望者応援講座及び初任者/パワーアップ講座を開催して、将来の特別支援教育を担う若手人材を育成する。

※各項目に関する関係者(外部委員、教職員、保護者)評価の詳細は、本校HPに掲載の「令和3年度 学校評価集計結果と今後の方針」、「学校評価 総括」及び「学校評価 児童・生徒評価 集計結果と回答」を参照。